新宿区染色協議会

染色業が新宿区の地場産業である事をご存じですか?

tokyo-somemono.com

東京・新宿には江戸時代から続く、江戸小紋・江戸更紗・東京手描友禅・江戸刺繍・糊画・紋章上絵・染色補正・洗張・湯のし等の工房が現存し、全国的も染の街として知られております。伝統を踏まえながらも、現代の着物を表現している「染の王国・新宿」をご紹介します。

各種年間行事

会期中、ラリーGOAL会場「上落合東部町会会館」にて
「染の王国 新宿・落合ほたる展」を開催致します。

落合ほたるとは ——

その昔、神田川と妙正寺川が落ち合う町「落合」は綺麗な水を求めて蛍がたくさん集まる江戸時代の観光スポットでした。浮世絵「落合ほたる」(新宿歴史博物館蔵)には、蛍狩を楽しむ人々の姿が描かれています。

明治・大正にかけて、落合には蛍と同じく綺麗な水を求めて多くの染色工房が集まりました。今でも、新宿区は知る人ぞ知る着物の一大産地なのです。「染のまち・落合」は今もその歴史を引き継いでいます。

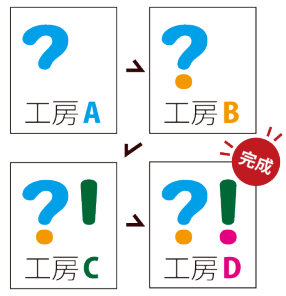
後継者である私達は、浮世絵の名前をとって「落合ほたる」と命名しました。

江戸自慢三十六興「落合ほたる」
歌川豊国・歌川(二代)広重
元治元年(1864年)　新宿歴史博物館蔵

"落合ほたる"で検索ください
http://www.otiaihotaru.com

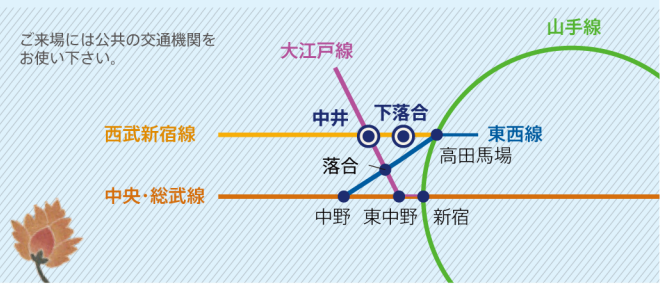
お楽しみスタンプラリー

各工房に異なる柄のスタンプを設置しております。**期間中、各工房で配布しているスタンプ用紙**に全スタンプ(計4種)をおすと一つの絵柄になります。スタートはどちらからでもかまいません。全種おされた方は会場(上落合東部町会会館)受付にて手ぬぐいをお受け取り下さい。(毎日先着200名様 お1人様1枚)



今年は新柄!!

[下落合・中井 交通アクセス]



紹介ほたる

着て来て落合

第13回 スタンプラリー 2014

2014. 10/±25-日26　start a.m.10:00 close p.m.17:00　主催:新宿区染色協議会・落合ほたる　後援:新宿区

みみより情報

着物でお越しの方には
以下店舗にて「オマケ」があります

オ 目印はこのマーク

やぶ重 / とんかつ たかはし / 喫茶 山ゆり / Area 8 Cafe

詳しくは店舗にお問い合わせください。

全工房、御自由に見学できます。

染のまち 落合 スタンプラリーでは
期間中、全工房を御自由に見学できます(無料)。
普段なかなか見ることの出来ない職人芸の世界
この機会にじっくりとご覧下さいませ。

各工房とも随時、人数集まり次第説明開始させて頂きます。

各所要時間 30分~1時間
(湯のし吉澤は30分程度)

東京手描友禅工房 協美(東京手描友禅)
〒161-0033
新宿区下落合4-6-17
TEL:03-3954-3331
FAX:03-3954-3332
www.yu-zen.net

松綱染工所
〒161-0033
新宿区下落合4-4-32
TEL:03-3951-3721
FAX:03-3951-3719
www.edokomon.com
※(期間中12時~13時休憩)

アトリエ功
(東京手描友禅)
〒162-0053
新宿区原町3-59
TEL&FAX:
03-3202-4673
www.atelier-koo.jp

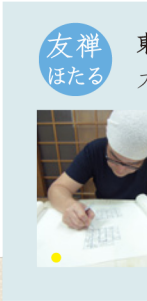
当日早稲田より会場に出張します

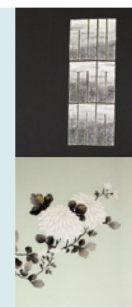
吉澤湯のし加工所
〒161-0034
新宿区上落合1-9-8
TEL:03-3368-2521
FAX:03-3364-3242
www.otiaihotaru.com/yosizawa
※(期間中12時~13時休憩)

染の里 二葉苑
〒161-0034
新宿区上落合2-3-6
TEL:03-3368-8133
FAX:03-3362-3287
www.futaba-en.jp

上落合東部町会会館
スタンプラリー 賞品受取場所
〒161-0034新宿区上落合1-25-24
TEL:03-3371-5202

染の王国 新宿・落合ほたる展 会場
新宿区染色協議会会員の作品も
多数出品されます。

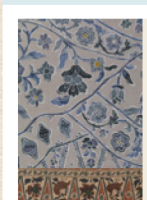




東京手描友禅工房 協美 (東京手描友禅)

大澤 学

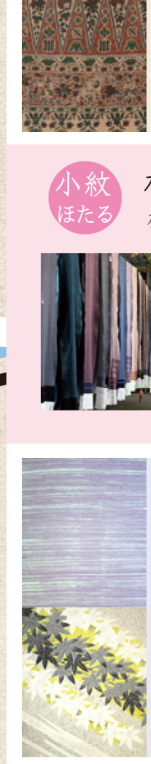
友禅染による着物や帯を日々制作し、そして、伝統的工芸品でもある「東京手描友禅」を広め、理解し、楽しんで頂く為に「友禅体験・友禅教室(染色教室)」も開催している工房です。

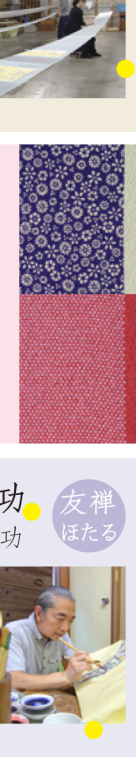


松綱染工所

砂川 裕孝

毛万筋、角通し、鮫小紋など極型の江戸小紋の染付けが得意な明治42年創業の老舗工房。実際に使える型紙は5,000種以上、デザインの数は何万にも上ります。伝統に安住すること無く、時代に合わせて果敢にチャレンジ!が会社のモットーです。

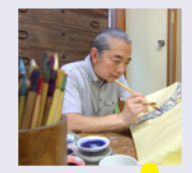


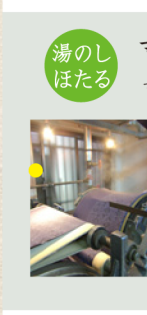


アトリエ功

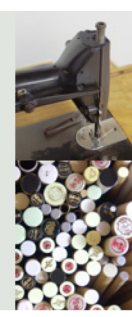
中村 功

四季の変化が美しい自然、とりわけ新宿という都会の中に漂う季節の風や空気の色を、自分自身の心象風景としてとらえ、友禅の技法を中心にして布に染め上げていく喜びは、かけがえのないものです。





吉澤湯のし加工所

吉澤 敏

「湯のし」とは蒸気を使い、しわを取り布目をまっすぐにし、幅を一定にそろえ、絹織物特有のツヤや照りを出すことです。職人として着物製作工程の仕上げの重要な加工として誇りをもち、また100%の加工をめざし日々努力しております。